

創造力をどう育てる？ ～共通教育とschole、 そして"効率化"

工学研究科 材料開発工学専攻
鈴木 清

異分野の学問領域の融合による創造を引出し、学生の自主性と士気を高めるためにも、共通教育は必要だと思います。また、学生が適切な履修科目を選択できず怠惰に陥ることを防ぐために、我々教員が共通教育の科目についてもっと知ることが必要だと思います。以下、これらのことについて記します。

そもそも、共通教育、あるいは教養教育に求められていることは何なのでしょう。それは、専門に捕われずに色々な知識や技能を身に付けることだと思います。では、なぜそのようなことが求められるのでしょうか。その理由の一つは、異なる分野の知識や技能の融合が、新しい知識や技能の創造につながるからでしょう。発明や創成についての研究で、そのことが認知されつつあるようです。もちろん、一つの分野のみの教育を集中的に受けて考えることが成果をあげることも多いでしょう。しかし、複数の分野の融合は全く新しい、予想しなかったような成果をあげることが期待されます。

しかし、文化と科学技術が発展し、学問や研究対象が多くの分野へ分化している現在の状況では、多くの分野について深い内容まで教育を受けるほどの時間的余裕は、学生さんには無いのかもしれません。また、「ゆとり教育」と「大学全入時代」の弊害なのか、入学者の基礎学力も低下しているようです。そこで、一部の人は以下のような意見を唱えているようです。すなわち、学科の専門科目の教育時間さえ不足しているので、学科の専門科目の履修に必要とされる内容の授業を系統的に受けさせる時間帯を増やすために、共通教育へ割く時間を減らす、極端な場合には共通教育を無くしたい、との意見です。これは、学生の受講可能な科目の選択肢を減らし、教員による管理を強めるということにつながります。

しかし、教員側が学科の専門科目の履修に必要と思う内容だけを、学生さんに教育するだけでは、教員の思うような学生さんしか現れないという可能性が高いです。学生さんが教員を越える発見や発明をすることは少なく

なるでしょう。学生さんが勉学にいそしんでも教員を越えることは難しくなり、学生さんの士気も減少するのではないかと危惧されます。私は学際実験・実習に参加させていただいており、他学科の学生さんと一緒に活動させてもらっていますが、彼らの持っている、私の持っていない能力には、驚かされます。彼ら自身にも、私が彼らを高く評価していることは伝わるようで、彼らの士気も高まっているように感じています。

また、学生を選択できる科目の種類が減る、すなわち、何を勉強すべきかを教員が学生に強いてしまうことは、学生の自主性や決断力を引き出すことを妨げます。いわゆる「指示待ち人間」を増加することにつながりかねません。

とは言え、多くの学生は、共通教育の科目を選択する際に、自分の能力形成のために何を履修すれば良いのかを判断できず、楽に単位の取れる科目に群がり、十分には勉強しないということもあると思います。そんなことが起こっているのなら、教員が学生に習得してほしいと考える科目を学生に提示したり、場合によっては強制することの方が、学生の教育において有効かもしれません。また、学生が「どんな科目を選択したら良いか」と助言教員などに相談してきたら、学生の身に着きたい能力の向上にとって効率的と考えられる一連の科目を教員が提案してあげることが望ましいです。しかし、改めて、共通教育にどんな科目があるのかを自問してみたところ、殆ど認識していないことに気づきました。これでは、到底、学生さんにアドバイスすることなど出来ません。みなさんは共通教育にどんな科目があるのかを把握されているでしょうか。把握した上で、「共通教育は不要だ」と言えるでしょうか。

オフトピックで恐縮ですが、ゆとり(schole)の無いのは、学生さんだけではありません。我々教員にもゆとりがありません。自分のすべき仕事もなかなか十分にはできません。そんな中で、「共通教育にどんな科目があるのかを把握すべきだ」と言われても、誰も把握するために時間を割かないでしょう。学校や学者の語源はscholeなんですけど。今日は朝4時に起床して、この提出メ切期限を過ぎた原稿を2時間半で書き上げました。さあ、他の残業をこなさないと…。